

京都市廃棄物減量等推進審議会

「第4回 循環型社会・ごみ半減をめざす 条例・プラン推進部会」 摘録

【日時】平成29年3月14日（火） 午後3時～午後5時

【場所】ホテル本能寺 5階 「^{かりがね}雁」

【出席委員】浅利委員，齋藤（勝）委員，齋藤（敬）委員，酒井部会長
高田委員，平塚委員

【欠席委員】北原委員，崎田委員，山川委員，山下委員

I 開会

II 報告

- 1 ごみ量の状況等
- 2 平成28年度事業の報告
- 3 平成29年度の新たな取組について

（事務局）

資料1（ごみ量の推移（平成29年1月末時点の速報値）），資料2（平成28年度事業の報告），資料3（平成29年度京都市予算案事業概要）に基づき説明

（齋藤敬委員）

商慣習の見直しに関する社会実験については、先日新聞に載ったこともあり、社内でも反響があった。現在我々としても、このような取組は進めていくべきと考えている。通常、食品の期限の確認作業は従業員の目で行っており、大変な時間がかかっているが、これを機械化することで、期限の確認作業を効率化するパイロット店舗をつくらうとしているところである。それにより、期限の設定を延ばすことができないのかということの検討を進めようとしている。弊社は京都市内にも10店舗程度あるが、その1～2店舗をパイロット店舗として選定し、京都市と連携した実験を実施しても面白いのではないかと思う。もし、そのような進め方ができるのであれば、私も店舗に話をするので、そのような形で少しずつ進められたらと思う。しかし一方で、チェーンストア協会としては、消費者の喫食期間も考慮した上で商品を選定し、期限を決めるべきではないかという意見も出ている。事業系の廃棄物が減っても、家庭系の廃棄物が増えては意味がないので、それは確かにそうであると思う。そのような点も踏まえた上で、パイロット店舗で検証ができればと思う。

（酒井部会長）

ぜひ、十分に調整いただき、具体的な計画をつくった上で、試行前に部会で紹介いただきたい。委員の御意見もいただきながら、具体的な進め方を検討できればと思うので、よろしく願います。

金メダル制作の件について、小型家電リサイクル法の基本方針では、回収量の目標値も

示されているところであるが、現在の京都市の回収量についてはどのようにお考えか。

(事務局)

小型家電の回収事業はこれまでから実施してきたものであるが、金メダルの製作により、事業を見える化することで、回収の促進を図っていきたいと考えている。小型家電リサイクル法の基本方針で示されている目標数値を京都市に置き換えた場合、現在の回収量の10倍以上の約1500トンとなる。京都市は全国的には回収を進めている方ではあるが、まだまだ頑張っていかなければならないという状況である。本来の目的は資源循環ではあるが、このような取組を通じて、市民ぐるみで小型家電の回収を進めていきたいと思う。また、先日、環境省からも、小型家電の回収に関する自治体向けの通知をいただいたので、そことも連携しながら進めていきたいと思う。

(酒井部会長)

簡単な目標ではないということは、昨年のリサイクル法の見直しの中でも意見はあったが、先ほどの1500トンという数字との乖離はまだまだ大きいので、これを埋めるためにどうするのかということも、ぜひ考えていていただきたい。

(浅利委員)

アプリについて、どれくらいのダウンロード数を目標にされているかは分からないが、現時点の1800件という数字は少ない気がする。すでに運用されている自治体では大体どれくらいなのか、把握されているようであれば教えていただきたい。

後ほど「しまつのこころ得」の冊子についても御説明いただけると思うが、最近では民泊も含めて、海外から来られている方に、いかにスムーズに理解して協力していただけるかということも重要になっていると思う。本日お配りいただいた漫画も、そのような方もターゲットとされているかと思うが、この機会に一度、どのようなツールで誰をターゲットにどんな情報を流しているのかということの整理もしていただければ、より戦略的な啓発ができるのではないかと思う。

(事務局)

他都市の状況であるが、札幌市や横浜市では、ごみの分別に関するアプリを配信しており、ダウンロード数は約1万件くらいである。京都市の現状では、昨年12月から配信を開始し、2月末現在では1800件ということではあるが、今後、大学生を含めた転入者に対しても啓発を強化することで、多くの方にダウンロードをしていただきたいと思っている。「しまつのこころ得」は、英語版の作成も予定しているので、留学生向けにも広められたらと思う。

(酒井部会長)

他都市のダウンロード数を考えると、初年度としてはこのようなものではないかと思う。

(事務局)

「しまつのこころ得」の冊子にもアプリのQRコードを付けているが、これから流通する有料指定袋の外袋にもQRコードをつける予定である。それにより、今後、主婦の方にも周知はできると考えているので、2万件を目指して頑張っていきたいと思う。

4 ごみ減量メニューの実践による効果検証調査の結果について

(事務局)

資料4（ごみ減量メニューの実践による効果検証調査の結果について）に基づき説明

(酒井部会長)

京都エコ修学旅行であるが、参加された学校や、宿泊施設など、幅広くステークホルダー別にアンケートを取っていただいているので、いい調査になってきていると思う。先ほど進行中ということで御説明をいただいた土産物の包装物とは、非常に関係が深いと思うが、現状を御報告いただきたい。加えて、参加生徒からの意見にもあったように、レジ袋や紙袋を断っても渡してくる店舗があるということは、非常に悲しい現実なので、ここの改善に向けて、どのような次の一手があるのかということ、ぜひ事務局または委員の方々からも御意見をいただきたいと思う。

(事務局)

まず、土産物の包装物に関する調査の進捗状況について御説明させていただく。今回の調査では、土産物の中でもお菓子の絞り、お菓子の容器包装の削減ということで、袋売りで箱売りの商品を扱っているメーカーの商品を調べているところである。容器包装の重さに関しては、当然袋売りの商品の方が圧倒的に少なく、箱売りの方が多いということになっているが、なぜ、メーカーはそれぞれの売り方に行き着いたのかという理由を追及して、そのような取組を他の土産物屋にも広げられないかということを考えている。

京都エコ修学旅行について、紙袋を断っても渡される土産物屋があったということは、反省点であると思っている。本事業は来年度も実施する予定であるが、土産物屋には、例えば京都土産出品協会といった団体もあるので、そのようなところも通じて、本市の取組を説明させていただき、趣旨を理解していただいた上で、ぜひ協力をお願いすることができればと思う。事前に土産物屋にも説明すべきであったということが反省点なので、来年はしっかりと取り組んでいきたい。

(酒井部会長)

反省点ということで整理をされているが、逆に渡された事情や背景など、気を付けなければならない部分があれば、一方的な押し付けになるので、双方向でしっかりと意思の確認をできるような形にしていただく方がいいと思う。できれば、本部会の委員として、土産協会等の方を加えてはどうかと思うがいかがか。今回、エコ修学旅行を進める中でこのような意見がでたということに対して、はっきりとした事情があるのであれば、しっかりと開示をしていただきたいと思う。これは反省につきますということだけでいいのか、その

ようなことも含めて、非常に重要な役割を担う委員になると思う。

(事務局)

委員として加わっていただくのか、意見をいただくのか、手法はいろいろとあると思うが、部会長御指摘のとおり、各々の事情もあるかもしれないので、まずは我々の方から御意見を聞いた上で、このような場でも主張されることがあるのであれば、主張していただきたいと考えている。手法については、今後検討していきたい。

(酒井部会長)

承知した。そういうことで進めていただき、簡易包装の話も、先ほど袋売りか箱売りかということがあったが、それだけの問題ではないと思うので、これをどう減量していくのか、一緒に考えていけるようなスタンスでお声かけいただくようお願いしたいと思う。

(斎藤敬委員)

過剰包装の件であるが、これに関してはスーパーでも厳しく言われている。消費生活条例では、空間容積が20%以上あってはならないということになっていると思う。土産物の空間容積も大きいと思うが、この基準は土産物には適用されないのか、一度御確認いただければと思う。

土産物の紙袋の件であるが、これは宣伝のために配っているという部分もあると思う。土産物屋からすると、営業に大きく関わる部分になるので、例えば代替策のようなものを提案するなど、そこをどう改善するかということを考えていかなければならないと思う。

(浅利委員)

宴会の調査について、サンプル数は少ないものの、成果は出ている印象である。今回は対象にされていなかったと思うが、今後、調査を継続されるのであれば、飲み残しも視野に入れてもいいのではないかとと思う。

また、調査結果からは、注文し放題の居酒屋からの食べ残しが多いようであるが、「食べ放題」や「飲み放題」など、「し放題」というイメージ自体を変えていかなければならないと思う。実際には定額制ということであって、決してしたい放題というものでもないので、そのような視点があってもいいのではないかとと思う。「しまつのこころ得」の冊子の中でも、食べ放題が本当にお得なのかということも書いていただいているが、し放題ではないというところも加筆してもいいのではないかとと思うので、今後のアプローチの方法については考えていっていただきたい。

エコ修学旅行について、旅行代理店の意見の中に業務が多忙のためという意見があったが、これは今後の展開にも関係してくると思うので、状況を御説明いただけるようであればお願いしたい。

(事務局)

旅行代理店4社に事業の趣旨を説明し、修学旅行の方にはこの制度を紹介していただくよう、お願いをして周知をした。業務が多忙のためという意見であるが、これは、紹介を

受けた先生は一定興味を示されたが、多忙のためそこまで手が回らなかったということで聞いている。今回、230校御参加いただいた中で、旅行代理店を通じた参加は少なかったが、別途、各地区の校長会で周知をお願いをしたことにより、そこで口コミが広がり、その流れで御参加いただいたということが多かった。

宴会の調査の件であるが、今回の調査では、結果として取組ありの場合、なしに比べて4分の1まで食べ残しが減ったということになっている。しかし、サンプル数は少なかったと認識しているので、来年度も継続して調査を進めていく必要があると思っている。宴会のシチュエーションなども変えながら、飲食店にも関心を持っていただけるような調査結果を示していく必要があるので、調査を重ね充実した結果を示した上で、食べ放題が本当にお得なのかということも、強く発信していきたいと思う。

(酒井部会長)

あまり理念的に訴えるよりも、もう少し客観的な数字も使いながら発信した方がよいと思う。もちろん、モラル的はどうということも1つではあると思うが、ごみ減量の話は、しっかりと客観的な情報で訴えていく方がいい。モラルばかりになると、すぐに行きつくので、挑戦と失敗を繰り返して初めて定着するものであると思う。

(高田委員)

小売店における野菜などの購入促進POPについて、店側というのはどのような反応をされていたのか。取組を実施してよかったという印象か。

(事務局)

店側も廃棄につながる部分は減らしたいということでは目的は一緒なので、賛同して御協力いただいた。今回の調査結果により、廃棄は少なからず減っているということは実感していただいたかと思うが、調査期間が短かったということもあり、その信憑性については、今後調査を継続する中で検証していく必要があると思う。また、今回、スーパーの取組の実態を把握する中で、いかにスーパーが返品や廃棄をしない工夫をされているのかということがよくわかったので、次年度は、商慣習の調査とあわせて、消費者側の意識も十分に把握した上で、調査を進めていきたいと思う。

(高田委員)

消費者側の意識も大事であるが、やはり事業者側の取組の実態が分かるということが、消費者にとっても一番納得していただけたと思う。そういう意味でも、取組がよく見えるような形で進めていただきたいと思う。事業者の方の努力が分かれば、消費者も賛同するということはあると思うので、双方向で情報共有ができればと思う。

(齋藤勝美委員)

POPのキャッチフレーズについて、例えば書店などでは店員さんが書いているようなところもあり、それによって売上が相当変わるということもあるようなので、このようなキャッチフレーズを各店舗で考えていただき、それぞれデータをとることができれば、面

白い結果が出るのではないかと思う。

(事務局)

そのような取組も面白いと思うので、次回の調査でも盛り込めないか検討したいと思う。

(斎藤敬委員)

スーパーでは、食品の廃棄を減らすために、見切り販売やセット販売を行っているが、消費者もよく考えて購入しなければ、事業系ごみの廃棄は減っても、家庭での食品ロスの発生に繋がる可能性がある。今回の調査では、スーパーで店頭アンケートを実施していただいているが、継続して調査をされるようであれば、見切り販売商品をもともと購入していると回答された方に「全部食べましたか」ということも聞いていただきたい。それにより、安く買ったつもりが、損をしているかもしれないということに気付いていただくきっかけになると思う。そのような啓発も含めてアンケートを実施していただけたらと思うので、よろしくお願いします。

(酒井部会長)

重要な視点なので、ぜひ検討していただきたい。また、このような効果検証調査は、そもそも数字が正しいのか、1回の調査だけで評価するのは難しいので、数字の正しさや代表性という視点も意識しながら、次年度の調査は進めていただきたい。

Ⅲ 議事

1 ごみ量の数値目標に関する見直しについて

(事務局)

資料5（ごみ量の数値目標に関する見直しについて）に基づき説明

(平塚委員)

削減目標についてであるが、現在事業ごみは、クリーンセンターでの搬入物検査や、排出事業者への指導により、大幅に減量が進んでおり、これ以上減らす余裕はないと思う。ここから更に家庭ごみと同じレベルで減らしていくということは非常に厳しいと思うが、どのようにお考えか。

(事務局)

今後、平成28年度の減り具合を把握した上で傾向を見てもなければ、どのような形になるかは分からない部分はある。雑がみについては、この間、市民の皆さんの御協力により、平成25年度比で約1万トン減量が進んでいるが、分別実施率で言うと約3割程度となる。ここで試算している家庭ごみの雑がみ0.9万トン減については、分別実施率を3割から6割に上げることを想定しており、かなり頑張らなければならない数字である。一方で、事業ごみについては、28年4月からの雑がみの分別義務化以降、事業者の皆さんに非常に頑張ってもらっているといると思うが、39万トンの達成は、家庭ごみも含め、今以上

に分別や発生抑制に努めていただかなければ成し得ない数字であると認識している。今までは順調に減ってきたが、これからはまさに正念場である。今回はあくまで試算ではあるが、このような形でなければ達成は難しいということで、考え方について提案をさせていただいたところである。

(平塚委員)

雑がみについては、まだまだ取り組まなければならない部分はあるということは認識しているが、生ごみについては、減らしていくのは厳しい部分はあると思う。

(齋藤勝美委員)

焼却炉の運転という視点で考えると、生ごみはカロリーが低いため燃えにくく、一方で紙やプラスチック類はカロリーが高いので燃えやすいというところがあると思うが、今の状態からごみのバランスが変わってしまうと、燃料を投入しなければならないということも有り得るのか。

(事務局)

現在のところ、運転中にガスや重油を足して燃焼させるといったことはないが、焼却炉を点検後、立ち上げの際に燃料を足して一定の温度まで高めるということはある。

(齋藤敬委員)

グラフによると、生ごみのうち、調理くず等の量も多い。これをいかに減らすのかということもポイントであると思う。例えば、大根の皮を剥くにしても、余分に剥きすぎてしまうということもあると思うので、無駄のない調理方法などの情報をアプリで発信してもよいと思う。

(事務局)

これまでの取組では、生ごみのたい肥化や飼料化といったリサイクルの部分に加え、エコクッキング講座やフリーペーパーにより、食材の使いきりに関する啓発を行ってきたが、それをより多く周知するために、アプリや他の広報媒体で発信していくことも必要であると思う。ただし、ごみ量の目標を考える際には、今後どこをターゲットにすべきかという視点で、排出量の多い雑がみと食品ロスを基に試算をさせていただいたところである。

(酒井部会長)

平成32年度まではすぐであると思うが、その後はどうすべきかということもそろそろ意識していかなければならない。ピーク時からのごみ半減ということは、キャッチフレーズとしてもよく、また政策目標としても妥当な目標であったと思うが、この39万トンがどういう意味を持つのかということも含めて、そろそろ準備をはじめていきたいと思う。

2 2R行動ガイド「しまつのこころ得」(案)について

(事務局)

資料6(2R行動ガイド「しまつのこころ得」(案)について)に基づき説明

(酒井部会長)

「旅の巻」の中で、観光客1人が100グラムを減らしたら5700トンの減量になるという数字があるが、ここはそもそもどういう意味を持っているのか。

(事務局)

一人当たりの減らしていただきたいごみ量の目安ということで書かせていただいている。目安として100グラム減らしていただければ、これだけの量になるという規模感を伝えるために、このような表現にさせていただきました。

(酒井部会長)

一般的な数字として使うには、少し危ないように思う。観光客はどのくらいのごみを出しているのか、その数字も示さずに宣言してしまうのは良くないように思う。

(事務局)

日本の食品ロスの発生量は、国民1人1日当たり130グラム程度という数字があるので、そのイメージで観光客1人が100グラム減量できたら全体でどのくらいになるのかということで書かせていただいたものである。あくまで1つの目安であるので、100グラムの明確な根拠があるわけではない。

(酒井部会長)

それは少し無理があるように思う。まずは観光客がどのくらいごみを出しているのか、あるいはその中で減量の可能性がどの程度あるのかということをしきりと把握し、その上でこの数字を出していくべきである。しかし、今の段階でこの数字をなしにすることはできないと思うので、例えばここは、京都市の家庭ごみと事業ごみの原単位を並列で示し、観光によるごみを含めた事業ごみはこれだけ出ているということから、観光客への減量を呼び掛けるようなフレーズを入れる形にしてもよいと思う。

(事務局)

数字については考えさせていただく。例えば、街頭ごみの量と観光客数から他都市との比較もできると思うので、その辺りも含めて検討させていただく。

(浅利委員)

今はどういう状況かは分からないが、少し古いデータでは、祇園祭で発生するごみ量は、一人当たり100グラム程度という数字もある。

(酒井部会長)

行動別に積算していく方法や、業態別に事業系ごみのうちの程度が観光客の割合になるのかということを考えていく方法もあると思うが、いずれにしても、観光客の量をもう少しきちんと把握するということをやっていた方がよい。もう少し別のものでもよいかもしれないが、その上で、ここをどう見せるのかは検討していただきたい。祇園祭の数字を考えると、意外と100グラムに近い数字になるかもしれないが、示し方はいろいろあると思う。

今回はこの3編で進めていくということであるが、あまり急にたくさん出しても広がりにくいと思うので、続編を作るかどうかについては、走りながら考え始めたらよいかと思う。

IV 閉会

(事務局)

3月28日に第60回審議会本会を開催させていただき、次回の第5回部会は、7月頃を目途に開催を予定している。開催に当たっては、事務局から事前に日程調整の連絡をさせていただくので、よろしく願います。